

極楽浄土の平等院鳳凰堂

さらしなの里も？

シリーズ151号で、「更級日記の作者である菅原孝標女は、当地に実際に旅をしたことのある能因法師から「さらしな・姨捨」に関する情報を得て、日記の執筆に生かしたかもしれないという推測を書きました。では、どのような情報もたらされ、どのように執筆に影響を及ぼしたのか。今号では菅原孝標女が晩年に見た「阿弥陀如来の夢」と「さらしな・姨捨の月」の関係を切り口に想像をたくましくしてみました。

菅原孝標女が晩年に見た「阿弥陀如来の夢」をここで取り上げる理由は、シリーズ47で書きましたように、「更級日記」を書く大きなきっかけになったからです。仏法が廃れる末法思想が広まった時代、物語好きで現実世界と向き合うのが苦手だった菅原孝標女が晩年、死をどう迎えればいいのかを真剣に悩んでいるとき、阿弥陀如来の夢を見て、本当に安心したと日記で吐露しています。

菅原孝標女が晩年に見た「阿弥陀如来の夢」をここで取り上げる理由は、シリーズ47で書きましたように、「更級日記」を書く大きなきっかけになったからです。仏法が廃れる末法思想が広まった時代、物語好きで現実世界と向き合うのが苦手だった菅原孝標女が晩年、死をどう迎えればいいのかを真剣に悩んでいるとき、阿弥陀如来の夢を見て、本当に安心したと日記で吐露しています。

菅原孝標女が晩年に見た「阿弥陀如来の夢」をここで取り上げる理由は、シリーズ47で書きましたように、「更級日記」を書く大きなきっかけになったからです。仏法が廃れる末法思想が広まった時代、物語好きで現実世界と向き合うのが苦手だった菅原孝標女が晩年、死をどう迎えればいいのかを真剣に悩んでいるとき、阿弥陀如来の夢を見て、本当に安心したと日記で吐露しています。

菅原孝標女が晩年に見た「阿弥陀如来の夢」をここで取り上げる理由は、シリーズ47で書きましたように、「更級日記」を書く大きなきっかけになったからです。仏法が廃れる末法思想が広まった時代、物語好きで現実世界と向き合うのが苦手だった菅原孝標女が晩年、死をどう迎えればいいのかを真剣に悩んでいるとき、阿弥陀如来の夢を見て、本当に安心したと日記で吐露しています。